

幅広く本に親しむための読書指導の工夫 ～ブックトークを取り入れた学習を通して～

那覇市立真和志小学校教諭 比嘉 陽子

テーマ設定の理由

近年、「活字離れ」や「読書離れ」が叫ばれている。本県においては、「基礎学力」の定着を図る取り組みの一つとして、理解力や思考力、表現力の基盤となる言葉の力を習得する上で、読書が果たす役割が大きいことを共通確認し、「朝の読書」や「読み聞かせ」などの読書活動を展開している。その結果、児童の読書量は確実に増加してきた。そこで、今求められるのは読書の量に加えて読書の質ではないだろうか。

小学校学習指導要領解説国語編によると、「読むこと」アに関する指導事項は読書に親しむ態度の育成を重視し、生涯にわたって読書に親しみ、読書を通して生活を豊かにする人間の育成を目指している。「読書を楽しむ」「読書に親しむ」という表現が多く用いられ、その重要性を明確にしているのも、読書の楽しさが味わえるようになった子どもは次々と読書活動を展開することができるからだと考えられる。

では、本学級の実態はどうであろうか。アンケート調査の結果、50 %の児童は読書が「大好き・好き」と答えた。「あまり好きではない・嫌い」の児童は約 10 %で、残りの 40 %の児童は「ふつう」であった。読書が「大好き・好き」な児童の多くは「おもしろい」「楽しい気分やうれしい気分になる」「本当にはおこらないことも書いてあるから楽しい」「いろいろなことがわかる」など読書によって多様なことを知る喜びを感じている。一方、「ふつうあまり好きではない・嫌い」の理由としては「字ばかりでつまらない」「読んでも意味がわかりにくい」「めんどくさい」など、内容の良さを感じられないものが主である。これは読書を楽しむ経験が少ないため、自ら進んで読書をしないうえ、そのため良書に出会っていないという悪循環が考えられる。

そこでブックトークを取り入れる読書指導について工夫したいと考えた。まず、本を読み広げさせるために、教科書教材と関連させたブックトークを取り入れるように単元を構成し、児童が本と出会う場を計画的に設定する。そして、読んだ本を紹介し合うことを通して、本のおもしろさや読書の喜びを味わわせ、本に親しむことができるのではないかと考え、本研究テーマを設定した。

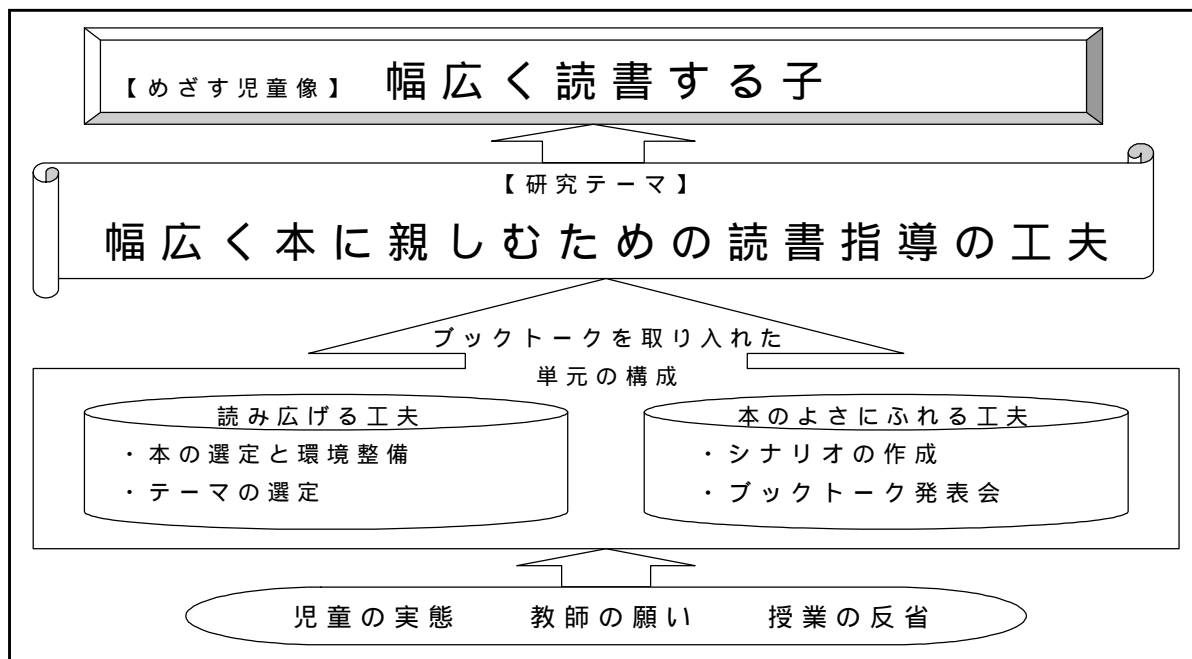
研究目標

幅広く本に親しませるために、ブックトークを取り入れた読書指導の工夫について研究する。

研究の方針

- 1 第三学年という発達段階をふまえ、ブックトークのテーマのもとに読み広げる工夫をする。
- 2 本のおもしろさやよさにふれられるような工夫をする。

研究構想図



研究の内容と方法

1 幅広く本に親しむとは

小学校学習指導要領解説国語編の「読むこと」に関する学年目標（資料１）によると、児童の発達段階を踏まえ、中学年では「幅広く読書をしようとする態度を育てる」ことが目標となっている。幅広く読書するということは物語中心の読書から説明的な題材や

低学年	楽しんで読書をしようとする態度
中学年	幅広く読書をしようとする態度を
高学年	読書を通して考えを広げたり深め ようとする態度を育てる

（小学校学校指導要領解説より）

資料１「読むことに」に関する学年目標

詩など、ふだんあまりふれ得なかった分野へ読書を広げることを意図している。また同資料の「読むこと」の言語活動に、中学年では動物が主役として登場する物語に興味をひかれやすく、それをきっかけにその作者の本を読み広げることも多いと述べられている。それは作品のおもしろさにひかれ読み広げている状態だといえる。

そこで、幅広く本に親しむとは、新たな視点をもって本を読み広げ、その本のおもしろさやよさにふれていることだと捉える。幅広く本に親しませるための読書指導の工夫として、ブックトークを効果的に取り入れる。

2 ブックトークとは

ブックトークは、ある一つのテーマのもとに何冊かの本を紹介することであり、読書への興味・関心を喚起することを目的に、子どもを対象に教師や司書が行うことが一般的である。

まず、ブックトークはテーマや本を選ぶことから始まり、紹介の方法を工夫して行う。一冊の本からいろいろなテーマのブックトークができ、紹介の方法も対象の発達段階をふまえ、図１のように様々である。いずれにしても時・場所・対象をおさえて効果的に行うことが大切だ。

今回、ブックトークを児童に行わせることで、目的意識を持った読書をさせたいと考えている。児童もブックトークを行うことによって、体系的に読書する楽しさや本のおもしろさを味わうとともに、互いのブックトークを聞いて相互交流し読書への関心を高めることができるからである。

低学年 中学年	・読み聞かせ・ストーリーテリング ・ペープサート・パネルシアター・クイズ ・同じ書名の本の紹介・実物や模型を見せる。 ・音楽を流す・参加者全員で斉唱したりする。
高学年	・読み聞かせ・ストーリーテリング・クイズ ・音楽を流す・参加者全員で斉唱したりする。 ・作者や作品の背景、作られた年代、書評なども盛り込んで紹介する。

図1 ブックトークの方法（一般例）

発表会に至る学習過程を想定すると、ブックトークは長時間を要するという印象がある。そこで、本を読み味わうことに時間をかけ、方法の選択やブックトークの準備については指導のポイントを押さえて円滑に行うことが重要だと思われる。工夫してブックトークを取り入れることによって、多くの本に出会わせ、楽しみながら本に親しませる。

3 ブックトークを取り入れた指導の工夫

(1) 本を読み広げる

本の選定と環境整備

読書材として価値の高いとされている本の中から、児童の興味・関心を喚起するような動物が主人公の本や、ジャンルを広げるための自然や言葉、民話などの本で、中学年に適した本を選定する。それらの本を学校図書室や地域の図書館から揃え、教室に図書コーナーを設置し、テーマに合った本を選んだり、いつでも本が読めたりするようにしておく。なお、選定した本のリストは資料編に掲載する。

テーマ選定の仕方

本やテーマの決め方には、次の2つの方法がある。本を先に決め、その共通点をもとにテーマを決定する方法と、テーマを先に決め、それに関連した本を集めていく方法である。後者は、体系的に本を選ぶという今までとは違った視点の楽しさを感じ、今まで手にしなかった本への幅広い出会いが期待できる。

そこで、後者の方法を取り入れる。児童にブックトークを行うという目的意識をもたせることで、興味あるテーマを選択し、テーマに合った本を読み広げさせることができるからだ。

図2に示したブックトークの流れを児童に知らせ、学習の見通しと目的意識をもたせる。

その際、重要なことはテーマの選定である。テーマになりえることは数限りなくあり、テーマによっては本を探すが難しくなる。ブックトークを初めて経験する児童にとって、適切なテーマを決めることは容易ではないだろう。そのため、教師が読ませたい本を先に選定し、その本が読み広げられるように意図したテーマを図3のように絞り、その中から児童にテーマを選ばせるようにする。

テーマの選定
本の選択
グルーピング
グループによる本や
方法の選択
シナリオ作成
準備・練習
ブックトーク発表

図2 ブックトークの流れ

・動物・ねこ・イヌ・さる
・オオカミ・きつね
・ライオン
・ねずみ・しぜん・海・川
・冬のお話・民話・ふしぎ
・かっぱ・まほう・言
・三木卓・馬場のぼる
・ジョン＝バーニンガ

図3 選定したテーマ

(2) 本のよさにふれる

シナリオ作成

ブックトークにおけるシナリオ作成は、その本のよさを伝えるために重要だといえる。児童は選定した本のよさを伝えるために、紹介者自身が読み味わい、そのよさをシナリオにまとめなければならない。テーマのもと読み広げた本のよさは、まさに本の主題であったり、展開の仕方であったり、発想のおもしろさであったりする。あるテーマのもと複数の本を紹介するため、テーマに基づいた比較読みの紹介もブックトークならではのおもしろさである。

しかし、第3学年ということを踏まえて、シナリオ作成の視点(図4)を提示する。テーマは必ず明記させ、～の中から必ず一つは書くことを指示する。また書く際には「聞いている人にわかりやすく」「もっとおもしろさが伝わるように」などと声掛けを行い、聞き手を意識させることも大切である。ブックトークの方法も児童の実態に合わせて、図5のように5つの方法だけを提示する。とまどっているグループに対しては、図6のシナリオ例を提示して、イメージを持たせるような支援をする。

シナリオに入れること
テーマ(必ず入れるもの)
登場人物のこと
おもしろかったところ
ふしぎなところ
みんなに読んで欲しいと思う
(～の中から一つ以上は選んで入れる)

図4 シナリオ作成の視点

おもしろかったところを開き、その部分だけ読む。
結末が気になるように紹介する。
クイズを入れる。
内容の変化をペープサートの表裏を使って表現する。
全部読み聞かせをする

図5 ブックトークの方法

テーマのこと

わたしたちグループは「きつね」というテーマでブックトークをします。

1 さつ目の本のこと(登場人物・おもしろかったところ)

さいしょは「ともだちや」という本をしょうかいします。この本にでてくるとともだちになるとともだちやをはじめます。でもオオカミに出会って本当の友だちになるお話です。

この本を読むときつねさんよかったね、という気持ちになりますよ。ぜひよ

2 さつ目の本のこと(登場人物・聞きたくなるような言い方)

次は「はなますのおかのきたきつね」という本をしょうかいします。この本に出てくるきつねは家族のきつねですが、いっぴきだけ小さくて兄弟に負けてごはんがうまく食べられません。そのきつねはどうなるのでしょうか。今から読み聞かせをしますの

図6 シナリオの例(読み聞かせをするパターン)

ブックトーク発表会の持ち方

ブックトークは、本について語り本のよさを伝えることである。児童は、ブックトークを行うグループ(以下演じ手)になったり聞くグループ(以下聞き手)になったりする。そこで、ブックトーク発表会は、演じ手は伝わった喜びを感じることができ、聞き手は演じ手の良さや思いに気付けるように工夫する。

そのため、図7のように演じ手と聞き手の距離を縮めるような場を設定し、演じ手は同じ場所でブックトークを4回行い、聞き手はグループで移動し、4カ所でブックトークを聞くことができるようにする。また演じ手も聞き手も3～4人程の少人数を1グループとすることにより、一人一人の活動場面を多く持たせる。演じ手は全員役割があり、聞き手はブックトーク直後にワークシートを記入し、全員が自分の感想や思いを発表する。両方の役割を経験している児童どうしが互いのよさや本のよさを伝え合うこ

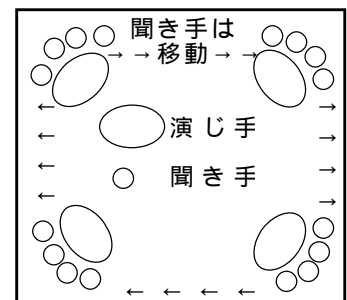


図7 場の設定の工夫

とで、喜びを感じることができる。このような相互交流を行うことで、読書への意欲を更に高めることができる考える。

(3) ブックトークを取り入れた単元の構成

読書単元「本の世界を広げよう」(16 時間扱い)において、ブックトークを学習活動に取り入れるために、表 2 のように単元を構成した。教科書教材「屋根のうかれねずみたち」「のらねこ」を動物ねこが登場しているおもしろい本として紹介し、ブックトークの導入として扱いたい。2 つの読み物には、全くタイプの違う動物ねこが出てくることから、ねこをテーマとし、その比較からおもしろさを味わわせたい。

第 1 次と第 2 次では、形式的な読み取りの指導に陥ることなく、児童が主体的におもしろかったところを探せるよう、個人、グループと形態を変え学習させる。また、第 2 次の「のらねこ」では、授業の最後 15 分程度は教師によるブックトークを取り入れ、児童にもできそうなわかりやすいブックトークを工夫することによって聞くことを楽しみ、自分たちもブックトークがしたいと思えるようにする。第 3 次では、児童がブックトークをするための準備と発表である。それぞれが自分がおもしろいと感じた本のよさをグループで共有したりそれを伝えるための工夫をすることで、読む喜びを感じさせ、本に親しむことをねらいとしている。

表 2 単元構成表

	学習目標	主な学習活動	教師の支援	○評価 方法
第 一 次 三 時 間	(1 / 3 時間) ・『屋根のうかれねずみたち』のおもしろさに気づき、感想を持つ。	・『屋根のうかれねずみたち』の読み聞かせを聞き、初発の感想を書く。 ・登場人物や話の中心、それぞれの人柄や特徴について気付いたことを発表する。	・教科書ではなく、教科書の読み物が実際に載っている本で、「屋根のうかれねずみたち」と「のらねこ」の本を紹介することによって、2 つの本にねこというテーマがあることに気付かせる。 ・ブックトークのテーマになりえる要素として、登場人物や物語の主題などを意識させる。	○話の内容の大体を理解して感想を書くことができたか。 書く能力 ワークシート
	(2 / 3 時間) ・『屋根のうかれねずみたち』をめあてを持って音読し、友だちがおもしろいと感じたところを自分たちのグループと比較したり共感したりして楽しむ。	・自分のおもしろかったところを中心に音読する。 ・はつきりゆっくり読む ・息を合わせて読む ・グループごとに発表し、互いの音読を聞き合う。	・おもしろかったことを伝えることに視点を明確にし音読のめあてをもたせる。 ・3 次でのブックトークに生かせるよう、相手に伝えるための読み方を意識させる。 ・読めない漢字や難語句があれば解決しておく。	○めあてにそって読むことができたか。 読む能力 ふりかえりカード
	(3 / 3 時間) ・『屋根のうかれねずみたち』をめあてを持って音読し、お互いの友だちの音読のよさに気づく。	・読みたい場面を話し合い、役割を決めて音読する。 ・点や丸に気をつけて読む。 ・心をこめて読み、役になりきる。	・役割読みをするときの視点を明確にし、めあてを持たせる。 ・3 次でのブックトークに生かせるよう、相手に伝えるための読み方を意識させる。	○めあてにそって役割読みができたか。 読む能力 ふりかえりカード
	(1 / 5 時間) ・『のらねこ』のおもしろさに気づき、感想を持つ。	・『のらねこ』の読み聞かせを聞き、初発の感想を書く。 ・登場人物や話の中心、それぞれの人柄や特徴について気付いたことを発表する。	・読み聞かせをし、興味や意欲を持たせる。 ・ブックトークのテーマになりえる要素として登場人物や物語の主題などを意識させる。	○話の内容の大体を理解して感想を書くことができたか。 書く能力 ワークシート
第 二 次	(2 / 5 時間) ・楽しんでブックトークを聞き、テーマに合った本を読む。	・「ねこ」をテーマとしたブックトークを聞く。	・2 つの物語教材は簡単に紹介し、他にもタイプのちがうねこの本を使ってブックトークを聞かせ、同じねこでも比較するおもしろさを味わわせるようにする。	○ブックトークを聞いて本を読む意欲がわいてきたか。 関心・意欲・態度 ワークシート

第 二 次	(3/5時間) ・『のらねこ』をめあてをもって音読し、友だちがおもしろいと感じたところを自分たちのグループと比較したり共感したりしてしむ。 ・ブックトークを聞き、テーマに合った本を読む。	・自分のおもしろかったところを中心に音読する。 ・はっきりゆっくり読む。 ・息を合わせて読む。 ・「男の子」をテーマにしたブックトークを聞く。	・おもしろかったことを伝えることに視点を明確にし音読のめあてをもたせる。 ・3次でのブックトークにいかせるよう、相手に伝えるための読み方を意識させる。 ・読めない漢字や難語句があればテーマとし、解決しておく。 ・『のらねこ』に出てくる「リョウ」という男の子とは全然違うタイプの男の子が出てくる本を選びひとつのテーマから広がりを持たせられるようにする。	○めあてにそって音読できたか。 読む能力 ○楽しんでブックトークを聞くことができたか。 聞く能力 「リョウ」
	(4/5時間) ・『のらねこ』をめあてをもって音読し、友だちがおもしろいと感じたところを自分たちのグループと比較したり共感したりしてしむ。 ・ブックトークを聞き、本を読む。	・グループごとに発表し、グループごとの音読の視点を明確にし、めあてをもたせて読む。 ・はっきりゆっくり読む。 ・声の大きさに気をつける。 ・「作者」をテーマにしたブックトークを聞く。	・発表し、グループごとの音読の視点を明確にし、めあてをもたせて読む。 ・ブックトークをした後、児童に好きな作者を思い出せることによって、自分でもブックトークができそうだと、やってみたいという思いを持たせる。	○楽しんでブックトークを聞くことができたか。 聞く能力 せる。
五 時 間	(5/5時間) ・『のらねこ』をめあてをもって音読し、友だちがおもしろいと感じたところを自分たちのグループと比較したり共感したりしてしむ。 ・ブックトークを聞き、本を読む。	・読みたい場面を話し合めあて、役割を決める。 ・点や丸に気をつけて読む。 ・心をこめて読み、役になりきる。 ・「動物」をテーマにしたブックトークを聞く。	・役割読みをするときの視点を明確にし、めあてをもたせて音読する。 ・動物という大きなブックトークができることを知らせ、自分でもブックトークができそうだと、やってみたいという思いを持たせる。	○めあてにそって音読できたか。 読む能力 ○楽しんでブックトークを聞くことができたか。 聞く能力 ふりがえり
第 三 次	(1/8時間) ・自分の「テーマ」を選定する。	・いくつかのテーマの中から自分のテーマを決める。	・児童の実態に合ったいくつかのテーマを提示し、その中から自分のテーマを選べるようにする。	○自分のテーマを見つけることができたか。 関心・意欲・態度 ワークシート
	(2/8時間) ・「テーマ」にそった本を見つけるためにいろいろな本を読む。	・ブックトークをするためテーマに合った本を探し、読み広げる。	・本を紹介するには内容をよく把握することが大切だと話し、本選びは慎重にさせる。	○進んで読書をすることができたか。 関心・意欲・態度 ワークシート
八 時 間	(3・4/8時間) ・グループで協力し合い「テーマ」に合った本を選ぶ。	・同じ「テーマ」でグループになり、話し合いながら本を選定する。 ・よりよい本のために互いが選んだ本を紹介し合う。 ・友達がすすめた本のよさを知るために読んでみる。	・グループごとのテーマを話し合い、それぞれのテーマでブックトークをさせることにする。 ・本の選択が重要だということを強調し、あせらずに本を選んでゆっくり選べるよう支援する。	○いろいろな本を仲間がいない場合でもグループを作ることができる。 読む能力 ワークシート
	(5・6/8時間) ・ブックトークの方法を決め、グループで協力して準備をする。	・書く内容や方法を話し合い、役割を分担し、協力してブックトークの準備をする。	・物語のおもしろさを伝えることめあてを意識させ、めあてが達成できるように支援する。 ・話し合いや準備がうまくいっていないグループには援助をする。	○物語のおもしろさを伝えるためのブックトークの準備は援助をする。 関心・意欲・態度
八 時 間	(7・8/8時間) ・本のおもしろさが伝わるようなブックトークをする。 ・ブックトークを聞いてお話のおもしろさや、友達のブックトークの良さを見つけ、伝える。	・めあてをもってブックトークをしたり聞いたブックトークを聞いて良いところや感想をワークシートに書き、発表する。	・ブック・ブックトークの観点を明確にし、めあてをもたせる。 ・ブック・うまうまといは支援をする。	○ブックトークを行うときと聞くためのブックトークを聞いて話のおもしろさを感じることができたか。 聞く能力 ワークシート

授業実践

- 1 単元名 本の世界を広げよう
- 2 教材名（題材名） 「屋根のうかれねずみたち」ジェイムズ＝マーシャル（教育出版）
「のらねこ」三木卓（教育出版）
- 3 単元目標 本のおもしろさを感じ取り，幅広く読書しようとする。
 - テーマのもとに本を選び，読み広げる。（関心・意欲・態度）
 - 本のおもしろさを感じ取り，内容を大きくまとめたり，紹介したい部分を取り上げたりするなど，自分のおもしろかったところが伝わるように工夫してシナリオを書く。
（書く能力，言語についての知識・理解・技能）
 - 目的や場に応じて適切な音量や速さでブックトークをしたり，話の中心に気をつけ，ブックトークを聞いたりする。（話す・聞く能力）
- 4 単元について

(1) 教材観

本単元はある「テーマ」をもとに本を探するというこれまでとは違った視点から本を選ぶことによって，本のおもしろさを感じ取り，日常の読書活動を豊かにすることを意図している。

単元に含まれている2つの物語はどちらも「ねこ」が登場する話だが，それぞれの「ねこ」のタイプが全く違い，それぞれのおもしろさが楽しめる。『屋根のうかれねずみたち』は発想の逆転があり，ナンセンスのおもしろさを感じられる作品である。また，『のらねこ』は独特の文体で，優しさとユーモアを感じられる作品である。

(2) 児童観

11月に行ったアンケートによると，読書が「ふつう，あまり好きではない」児童が学級の50%を占めている。しかし「読み聞かせは好き」「自分で読むのはいやだけど誰かと一緒に読むのは好き」と形態が変わったり，「誰かにすすめられたら読んでみたいと思う」などきっかけがあったりすると読む意欲が高まることを示している。そこでブックトークを工夫し，取り入れることによって，一つのテーマから本を読み広げさせるとともに，本を読む楽しさや良さを味わわせ，読書に親しむ児童に育てたい。

(3) 指導観

本を読み広げ，本のよさを味わうために，児童が行えるようなブックトークを工夫し，取り入れ，幅広く本に親しませたい。

まず，ブックトークを行うためにテーマをもち，テーマに合った本を選ぶという今までとは違った視点から，児童は楽しんで新たな本や新たなジャンルの本に出会い，読み広げることができる考える。児童はブックトークを行うという目的をもつことで，一部の児童にみられる絵だけを見るような表面的な読みをするのではなく，本の内容を理解し，本のおもしろさやよさを味わえるような本の読み方ができるようにしたい。児童にブックトークをさせるには，シナリオ作成が必要となる。本のおもしろさを伝えるためのシナリオ作成をすることによって，本をじっくり読み，本のよさにふれることができる。

また，お互いのブックトークを聞いた後に，感想を発表し合い，自他のよさを認める場を設定することで，本のよさが伝わった喜びを感じることができ，さらに幅広く本を読んでいこうとする意欲を育てたい。

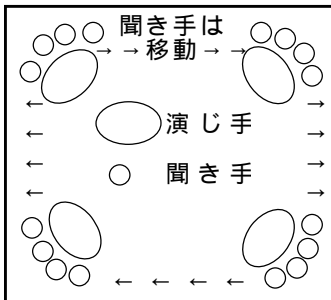
5 本時の学習

- (1) 目標
- 本のおもしろさが伝わるようなブックトークをする。読む・話す能力
 - ブックトークを聞いてお話のおもしろさや、友達のブックトークのよさを見つける。聞く能力

(2) 本時における具体的な手だて

- ・ブックトークに主体的に参加させるために、演じる時、聞く時のめあてを明らかにする。
- ・少人数の中でブックトークを行い、活動形態を工夫することによって、演じ手全員が役割をもち、聞き手全員が発表できるなど、互いの思いを伝えやすくする。
- ・ブックトークを聞いた友達から、ブックトークの良い点や感想を聞くことにより、本のおもしろさを伝えられた喜びを感じられるようにする。

(3) 本時の展開

	学習活動と主な発問	教師の支援	評価と方法
導入 3分	1 前時の学習を振り返らせ、ブックトークをやったグループのよさを思い出す。 2 めあてを確認する。	・前時の学習を振り返らせ、良かったことを話し、本時の課題につなげる。 ・ブックトークをするときのめあてや聞くときのめあてについて掲示物を使って確認させる。	・今日のめあてを把握できたか。 関・意・態
展開 37分	3 前時聞いたグループはブックトークを行う準備をする。 前時でブックトークを終えたグループはワークシートを持って聞く準備をする。 4 (演じ手) ブックトークをする。 (聞き手) ブックトークを聞く。(5分) 5 (演じ手) 今回の反省をし、次回に生かせるようにする。 (聞き手) ブックトークを聞いて、お話のおもしろさや友達のブックトークのよさや読みたくなった本をワークシートに記入する。(2分) 6 (演じ手) 発表を聞き、自分たちのブックトークについて感想を聞く。 (聞き手) 自分の考えや感想を発表したり、友達の考えを聞いたりする。(2分)	・ブックトークの準備をうまくいっているか確認し、用意できていないグループを支援する。  場の設定 ・1回8分の時間を守るため、区切りごとに音を出して時間を知らせる。(演じ手への支援) ・時間内にできなかった、小物がうまく活用できなかったなどの反省を次のブックトークに生かせるように声掛けや支援をする。 ・よりよくブックトークをできるようにめあてを再確認させる。(聞き手への支援) ・発表が苦手な子も自分の思いや考えを話せるよう、ワークシートの内容に目を通し、声掛けをする。	進んで準備に取り組んでいるか。 関・意・態 ・楽しんでブックトークができたか。 関・意・態 ・本のおもしろさが伝わるような「テーマ」に合ったブックトークができたか。話す・読む能力 ・ブックトークを聞いて本のおもしろさや友達のブックトークのよさを見つけられることができたか。 聞く能力 ワークシート ・自分の考えや感想を発表できたか。(話す能力)
終結 5分	8 学習のまとめ ・ふりかえりカードに記入する。 ・今日の授業を振り返って感想を発表する。	授業を振り返って自分が考えたり、感じたことをワークシートに書きましょう。 ○書く視点を例を挙げて示す。 ○ワークシートの中からいくつか発表させ、学習をまとめる。	・今日のめあてを達成できたか。 ふりかえりカード

(4) 評価

- 本のおもしろさが伝わるようなテーマに合ったブックトークができたか。読む・話す能力
- ブックトークを聞いてお話のおもしろさや、友達のブックトークのよさを見つけることができたか。
聞く能力

結果と考察

検証 1

ブックトークを行うという目的意識のもとに、テーマを持たせ、テーマに合った本を読み広げさせる。

【結果】アンケート調査の結果、何割の児童がテーマに合った本を選ぶことができたと考えているか、A さん、B さんはそれぞれのテーマのもと、どのような本を読み広げることができたかで検証する。

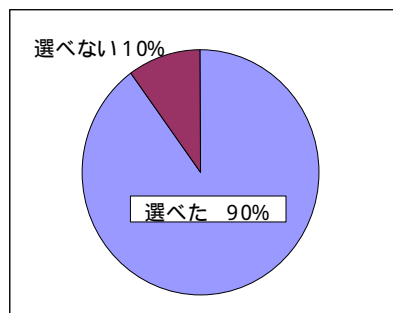


図9 テーマにあった本を選べたと考える児童の割合

Aさん（テーマ・言葉）

	本の名前
1	これはのみのぴこ
2	おはなしぽっちり
3	あした
4	あいうえおっとせい
5	いちば
6	いっぽんばしわたる
7	うごきのことば
8	おうむはことばがわかる
9	かくされたことば

Bさん（テーマ・自然）

	本の名前
1	はくちょうこ
2	オニヤンマ
3	さるとかえるのもちころがし
4	アゲハモンシロチョウ
5	アサガオ
6	あばれ川とたたかう
7	あまいみずからいみず
8	あるくやまうごくやま
9	くつつくふしぎ

図10 各テーマで読み広げた本

【考察】

図9より、90 %の児童がテーマに合った本を選ぶことができたと考えている。「選べなかった」という10 %の児童に話を聞いてみると、「自分で見つけた本は、グループでブックトークする本に選ばれなかった」という理由から否定的だった。しかし、個人で本を選ぶ段階ではテーマに合った本を選択することができたので、その10 %の児童もテーマに合った本を選択することができたと考えられ、全員がテーマを意識し、本を選択しているといえる。

図10のAさんは、事前のアンケートで本が好きだと答えている児童であり、4月から9月までの半年の間に129冊読んでいる。本校では第3学年の一年間の目標冊数が80冊であり、十分に校内読書冊数目標を達成している。しかし、Aさんのこれまでの読書傾向を見てみると、物語的な読み物に偏っていた。そこでブックトークをきっかけに「言葉」をテーマに本を読み広げ、言葉の繰り返しとリズムを楽しむ『これはのみのぴこ』や言語図鑑である『うごきのことば』という本まで幅広く読むことができた。またBさんは「自然」をテーマに本を選び、以前から大好きな動物の本だけではなく、『あまいみずからいみず』のような科学的な本にも関心を持って読み広げることができた。

これらのことから、ブックトークを取り入れ、テーマを自己選択させたことで、目的意識が高まり、今までとはちがう視点から本を選び、読み広げることができたと捉えられる。

検証 2

ブックトークのシナリオを作成させることによって、本を紹介する読み、本のよさにふれさせる。

【結果】表2は全8グループのテーマと紹介した本や方法をまとめたものであり、図11・図12はブックトークのシナリオである。それぞれの紹介したい本のよさについてどのように捉えて

いるかで検証する。

図 12 の C さんは、図書室に行っても「借りる本がない」と本を手にとることが少なく、事前のアンケートでも読書に対して「めんどろだ」「時間がもったいない」と書いている児童である。テーマは「動物」とすぐ決まったが、本はなかなか選ぶことができなかった。しかしブックトークをするという目的に向かって 8 冊の本を読み、納得のできる本を見つけ、シナリオは一気に書き上げることができた。

表 2 グループによるブックトーク

グループ	テーマ	紹介した本	方法
1	動物	あらしのよるに、あるはれた日に、どしゃぶりの日に、	
2		きりのなかで、くものきれまに、ふぶきのあした	
3		3 びきのかわいいオオカミ、動物図鑑、うみきりん	
4	きつね	月からきたうさぎ、ゆめいっぱいの大工さん、キツネのかみさま	
5	おおかみ	はまなすのおかのきたきつね、ともだちや、ハガネの歯	
6	海	ぶどう畑のあおさん、あしたもともだち	ペ
7	ふしぎ	にじいろのさかな、さかなのくらし	ペ
8	作者 (馬場のぼる)	不思議な木の実の料理法、真夜中の魔女の秘密、はじまりの樹の神話	登場人物の紹介
		アリババと 40 人の盗賊、11 びきのねこ、 ぶどうばたけのアオさん、11 びきのねことへんなねこ、 11 びきのあほうどり、11 びきのねことぶた	グ ペープサート

私たちのグループは動物というテーマでブックトークをします。さいしょは、ズをしょうかいします。とてもかなしい本ですよ。読んでみてください。

【あらしのよるに】 やぎのメイと、おおかみのガブが、あらしのよるに、友

【あるはれた日に】 ガブがメイの耳をかじろうとするけど、がまんする所で

【くものきれまに】 ガブがメイの先ばいをかじろうとするけど、メイが先ばい

【きりのなかで】 バリーがメイをおそうけど、まんなか岩をおとすところ

【どしゃぶりの日に】 ガブとメイがなかまたちから、ひきはなされる。

【ふぶきのあした】 ガブがメイをまもるために、ガブはさいごのちからをふ

という話です。

図 11 1 グループのシナリオ

【考察】

ブックトークをするためには、本をじっくり読み、内容のよさを感じるが必要になる。表 2 より、各グループがブックトークをするためにそれぞれのテーマのもとに本を選び、少ないグループは 2 冊、多いグループでは 6 冊の本を読むことができた。

図 11 の 1 グループは、シリーズで 6 冊の本を紹介している。まず、この物語の始まりである主人公のメイとおおかみのガブの出会いのおもしろさを表現している。また、6 冊の各本の要所をまとめ、紹介していることから、本を読み深め、それぞれの本の中心になる部分を捉えることができたと言える。

読書に対して苦手意識のある図 12 の C さんは、「キツネのかみさま」の本に出会い、キツネと女の子の同

ぼくのしょうかいする本は『キツネのかみさま』という本でツネと人間がなわとびをします。なんとキツネにもいう子がいて人間にもりえとの子が出てくるのです。おも本なので読んでみて下さい。

図 12 3 グループの C さん
シナリオ



写真 ペープサートでブックトークをしている様

じ名前による関わりに、おもしろさを感じたようだ。授業中にも「本は読まないの意味がないよ」という発言も聞かれ、事後のアンケートでは読書に対して「楽しい気持ちやうれしい気持ちになる」と回答していた。

以上のことから、ブックトークをするためにシナリオを作成させることによって、本をじっくり読み、そのよさにふれることができたと思える。

検証 3

本のよさを伝えられた喜びや互いの良さや思いに気付くような相互交流を工夫することにより、読書の意欲が培われ、よりよい本と出会う機会をつくる。

【結果】ブックトーク発表会において、感想を話したり質問をしたりする交流の時間を設定した。図 13 は 2・5 グループのブックトークを終えての感想とそれを聞いたグループの感想による交流の様子である。図 14 は、ブックトークを終えての 7 グループの F さんの感想である。図 15 は学級 30 名が、ブックトーク前後で読書に対する意識がどう変わったのかについてアンケートを取った結果である。以上の 3 点から相互交流することによって読書の意欲が培われ、本と出会う機会をつくることができたか検証する。

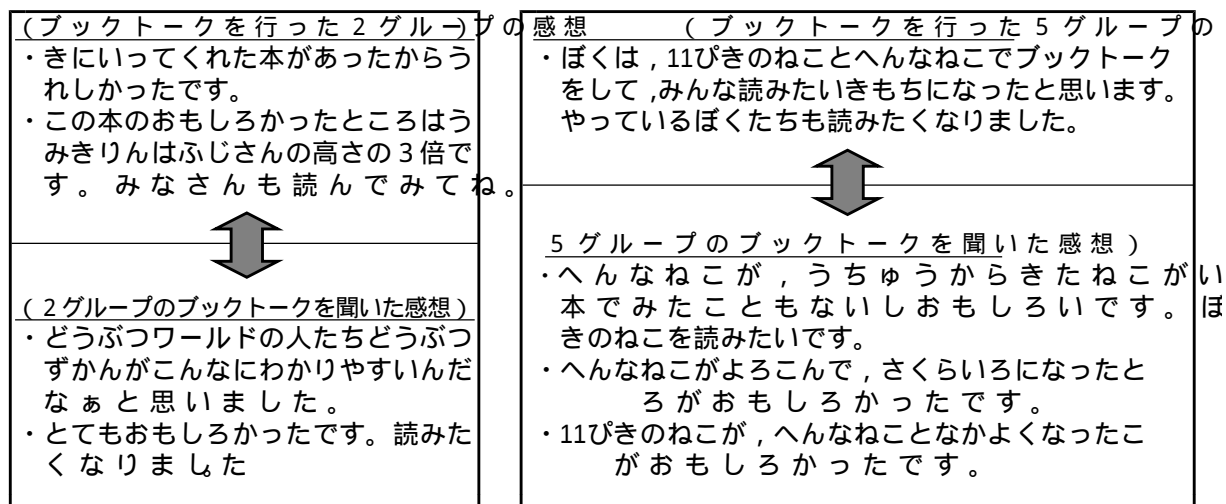


図 13 ブックトークを行ったグループと聞いたグループの感想

私は、ふしぎというテーマでブックトークをしました。さいしょ、けっこうながいなあと思ったけど、読むとおもしろいなあと思い、「こそあどの森の物語」シリーズの 3 さつをしょうかいしました。げんじつにはありえない話だけど、なんだか、ゆめの中では、本をよんでいるだけなのに、本の世界に入って、ストーリーをそうぞうしています。わたしは、この本にでてくる人は、みんなゆかいで、この本にでてくる人はぜんいん大好きです。わたしは、この「こそあどの森の物語」をしょうかいしてとってもよかったなあと思いました。

図 14 ブックトークを終えて F さんの感想

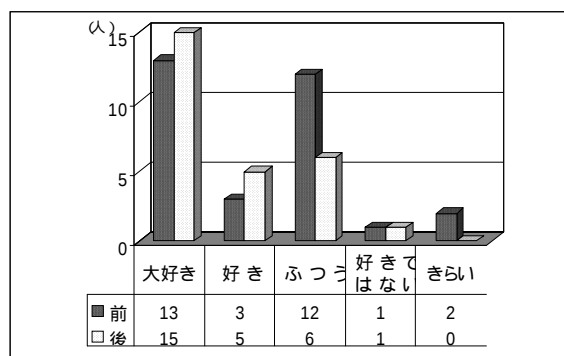


図 15 ブックトーク前後における読書意識調査

【考察】

図 13 は、ブックトークを聞いた児童の感想である。図鑑の 1 ページを取り上げて紹介した

2グループに対して「ずかんがこんなにわかりやすいんだと思った」「読みたくなった」という内容の感想を伝えた。「きにいつてくれた本があったからうれしかったです」と2グループも本のよさを伝えられた喜びを味わっている。

また図 13 の5グループでは、聞いた児童の感想で「へんなねこがよるこんでさくらいろになったところ」「へんなねことなかよくなったところ」におもしろさを感じたことや、「ぼくも読みたい」から本のよさが伝わったことがわかる。ブックトークを行った5グループも「みんな読みたい気持ちになったと思う。やっているぼくたちも読みたくなった」と満足感を得ることができた。

図 14 の Fさんは、ふしぎというテーマで本を選んでしたが、『こそあどの森の物語』という本に出会い、「先生、とってもおもしろい本を見つけたよ。」「おうちに帰ってもずっと読んでしまうくらい読みたくなるんだよ。」と話していた。楽しい本を友だちに紹介するという目的を持ってブックトークをし、読書に対する気持ちが「ふつう」から「大好き」に変わった。内容も事前は「読み聞かせなら好き」「誰かと一緒に読むのは好き」から、「おもしろい」「本当にはおこらないことも書いてあるから楽しい」と変容した。

図 15 よりブックトークを行うことによって、読書に対する意識が「大好き」「好き」が 15名から 23名に増え、なかでも「ふつう」と答えていた児童のうち、7名が「大好き」「好き」に変わったことがわかった。また、ブックトークをする前には「読書がきらい」と答えていた2名の児童が、ブックトーク後は「ふつう」「あまり好きではない」に変わり、「きらい」という答えた児童がいなくなったという結果から、学級全体として読書に対する意識が高まったと言える。これはブックトークを行うことによって、本のよさにふれ、読み味わうことができたからと考える。

以上のことから相互交流を工夫することによって、伝えたい思いが達成できたと満足感を得られると共に、読書意欲が培われ、本との出会いをつくることができたと考えられる。

研究の成果と課題

1 成果

- (1)ブックトークを工夫して、取り入れることにより、幅広く本に親しませ、本のよさを味わわせることができた。
- (2)ブックトークを中心とした単元を構成することができた。

2 課題

読書の習慣化を図るような指導の工夫。

《主な参考文献並びに引用文献》

「小学校学習指導要領解説 国語編」	文部科学省	東洋館出版社	1999
「ブックトークのすすめ」	山花郁子	国土社	1991
「ブックトーク入門」	岡山市学校図書館問題研究会	教育資料出版会	1986
「何をどう読ませるか」	国学校図書館協議会必読図書委員会編	全国学校図書館協議会	1994